

## \*\* 対人援助の心理 \*\*

### <援助行動の心理>

援助行動には必ず他者が存在し、しかも援助行動が必要とされる場面は、程度の差はあるとしても、何らかの援助が必要とされるある意味「緊急事態」の時です。そのような特殊な場面では、人間は、自分一人では必ずしていたであろう、あるいは、決してしなかったであろう行動をとることがよくあります。そのような特殊な場面での人間の心理を研究の対象とするのが、援助行動の心理です。

### <向社会的行動の種類>

向社会的行動（順社会的行動）とは、他者に利益をもたらしたり、他者の損害を減らしたりする行動のことです。向社会的行動には下記のような種類があります。

#### <向社会的行動の種類>

##### ①協力

ある共通の目標を達成するために、複数の人たちが力を出し合う行動のこと。

##### ②賠償(互惠的)行動

他者の善意への「お礼」としての行動のこと。

##### ③援助行動

見返りを求めない自発的な行動のこと。

##### ④愛他的(利他的)行動

自分の危険を顧みず、他者を救済する行動のこと。

### <援助行動の背景>

援助が必要とされる場面になると、だれでも援助の手を差し伸べるのでしょうか？ もちろんそんなことはありません。差し伸べる人もいれば、何もしようとしない人もいます。この差はどこから来るのでしょうか？ 考えられる要因は下記の通りです。

#### ①文化的要因

#### ②社会的状況的要因

#### ③個人的要因

世界には、自分が生き延びることだけに関心があり、家族に対してすら援助行動を取らない民族も存在します。反対に他者を気づかい、同情し、尊敬し、協力し、争い事を避けようとする民族も存在します。また次のような研究結果も報告されています。大家族で生活し、女性の役割が重視される社会など、単純社会の文化は利他的で、反対に核家族、職業的社会化、カースト制度や中央集権政府など、複雑な社会においては利己的な行動が多く観察された。

### <援助行動の5段階>

#### ①出来事の認知

#### ②自己判断の正確性の確認

これらの要素が全てクリアされた時に  
援助行動がなされると考えられている。

## ＊ ＊ 対人援助の心理 ＊ ＊

- ③自己責任の確認
- ④援助方法の有無
- ⑤行動の決定

### <各要素の説明>

- ①まずその場面や事態が緊急場面であると周囲の人に認知されることが必要。
- ②その場面を目撃した人が「これは緊急場面だ」と確信をもつことが重要。
- ③その緊急場面に対して、自分が何らかの対処をする責任があるかどうかを確認する。
- ④対処するとなった場合、自分にできる方法や手段があるかどうかの問題を考える。
- ⑤①～④までの要素を検討、評価、解決した後に援助行動が実施される。

### <援助する側の心理>

#### ①互惠性の原理

いわゆる「情けは人の為ならず」の精神から。

#### ②社会的学習理論

成長過程での学習（報酬）の成果から。

#### ③交換理論

援助をする時にコストと報酬を考えての結果から。

#### ④自己防衛理論

一見利他的、愛他的に見える援助行動の裏側に潜んでいる自己防衛から。

### <援助される側の心理> — 援助要請者 —

#### ①相手の勢力（権力、地位、立場等）

援助による衝撃をできる限り小さくしようとする心理から、あまり大きな勢力でない相手に援助を求める。

#### ②相手との距離（空間的距離）

目の前にいる相手に援助を直接求めにくいので、間接的な方法で援助を求める。

#### ③相手の数

援助を求めることのできる人は限られている方が援助を求めやすい。

### <援助行動の抑制理由>

援助行動が抑制される場合には、傍観者効果が働いていると考えられます。傍観者の数が増えれば増えるほど援助行動が抑制される可能性が高くなることが確認されています。それではなぜ傍観者効果が生じるのでしょうか？ その理由は3つ挙げられます。

#### ①責任の分散

「自分が助けなくても他のだれかが助けるだろう」という心理が働くため。

#### ②多数の無知（多元的無知）

他の人が援助していないところから判断すると緊急事態ではないのだろうと

## ＊ ＊ 対人援助の心理 ＊ ＊

周囲にいる全員が判断してしまう為、結果的にだれも援助行動を起こさない。

### ③聴衆抑制

行動を起こす前の心理的困惑や行動を起こした後、その結果に対して周囲から否定的な評価を受けるのではないかとすることを懸念するため。

	援助されにくい人	援助されやすい人
性別	男	女
年恰好	若者	高齢者
服装	だらしない	きちんとしている
緊急性	さほど緊急でない	緊急事態
責任	自己責任	自分の責任ではない

## \*\* 対人援助の心理 \*\*

### ＜向社会的行動尺度＞

NO.	質 問 項 目	点 数				
1	列に並んでいて、急ぐ人のために順番を譲る	1	2	3	4	5
2	お店で渡されたお釣りが多かった時、注意する	1	2	3	4	5
3	ころんだ子供を起こす	1	2	3	4	5
4	あまり親しくない友人にも講義ノート等を貸す	1	2	3	4	5
5	気分の悪くなった友人を保健室などに連れて行く	1	2	3	4	5
6	友人のレポート作成や宿題等を手伝う	1	2	3	4	5
7	列車などで、相席になったお年寄りの話し相手になる	1	2	3	4	5
8	気持ちの落ち込んだ友人に電話したり、メールしたりする	1	2	3	4	5
9	何かを探している人に、こちらから声をかける	1	2	3	4	5
10	バスや電車で立っている人に席を譲る	1	2	3	4	5
11	酒に酔った友人などの世話をする	1	2	3	4	5
12	雨降りの時に、あまり親しくない友人でも傘に入れてあげる	1	2	3	4	5
13	授業を休んだ友人のためにプリント等をもらう	1	2	3	4	5
14	家族の誕生日などに、プレゼントを贈る	1	2	3	4	5
15	見知らぬ人がハンカチを落とした場合、教えてあげる	1	2	3	4	5
16	知らない人に頼まれて、カメラのシャッターを押してあげる	1	2	3	4	5
17	バスや電車で荷物を網棚に乗せてあげる	1	2	3	4	5
18	知らない人が落として散らばった荷物を一緒に集めてあげる	1	2	3	4	5
19	ケガ人や病人が出た時、介抱したり救急車を呼んだりする	1	2	3	4	5
20	自動販売機や券売機等の使い方のわからない人に、その使い方を教えてあげる	1	2	3	4	5

合計 \_\_\_\_\_ 点

#### 【点数の内訳】

1：したことがない 2：1回やった 3：数回やった 4：しばしばやった 5：もっとやった

#### 【男女別評価】

採点	向社会的でない	あまり向社会的でない	普通う	かなり向社会的	向社会的
男性	～35	36～47	48～58	59～70	71～
女性	～40	41～51	52～62	63～73	74～